



県 小中高生アンケート

県内の小中高生約1500人を対象に県が2025年度に実施したアンケートで、スマートフォンを持っている中学生が初めて8割を超えたことが明らかになった。交流サイト(SNS)のやりとりなどインターネットを介したトラブルは、小中高生とも約1割が経験していることが確認された。(牧里保子)



スマホ所持 中学生8割超 「依存」高校生の51%

校生は99・3%が所持して
いた。

25年度は初めてインターネット依存に関する質問項目を加えた。「依存していると思う」と答えた中学生は32・7%、高校生は半数超の51・2%に上った。

ネットトラブルの経験は「知らない人・店からメッセージや迷惑メールが届いた」が9・1%で最多。次いで「SNSなどのやりとりで嫌な思いをした」が7・1%、「悪口や嫌がらせのメッセージを送られた、無視や仲間外れにされた」

が6・4%、「ゲームやプリでお金を使い過ぎた」が5・7%と続いた。

相談する相手は家族が最も多く、高校生は友人も多かった。

県は子どもをネットトラブルから守るため、利用時間や課金を管理するアプリや、有害サイトなどの閲覧を制限するフィルタリングサービスの活用を勧める。

同課は「保護者が年齢に応じたコントロールをし、家庭でのルールも話し合って決めてほしい」と話している。

県生活環境企画課によると、自分のスマホを使っている中学生は80・1%。前年度から5・5%増え、現在の形式で調査を始めた16年度以降で最も高くなつた。小学生は37・4%、高

県警 ネットトラブル「相談を」

インターネット上のトラブルに関し、県警は「交流サイト(SNS)での悪口・暴言は侮辱罪や名誉毀損罪に、他人のパスワードなどを悪用したなり済ましは不正アクセス禁止法違反に該当する可能性がある」と注意を促す。

県の調査では、ネットで知らない相手とやりとりを

した経験のある中高生は約4割に上ることが判明。送信には至らなかつたものの、裸や下着姿の写真を要求されたことがある人もいた。

県警生活安全部は「素性が分からぬ相手の情報を使うのみにしないことが危険を感じた時はやりとりをやめてほしい」と語る。

県警のホームページや公式SNSでは、不正アクセス被害、オンラインゲームを通じた犯罪、闇バイトなどへの対策を紹介している。「困った時は最寄りの警察署に相談してほしい」と呼びかけている。



〔問①〕 大分県が2025年度に実施したアンケートで、自分のスマートフォンを使っている中学生の割合は何%で、それは前年度と比べて何ポイント増えましたか。記事の中から数字を抜き出して書きましょう。

・中学生の所持率 [80.1] % 前年度から [5.5] ポイント増

〔問②〕 インターネットを介したトラブルの経験（小中高生全体）について2番目に多かったと紹介されているものを次のなかから選び、記号で答えましょう。

- (ア) 知らない人や店からメッセージや迷惑メールが届いた
- (イ) ゲームやアプリでお金を使い過ぎた
- (ウ) SNSなどのやりとりで嫌な思いをした
- (エ) 悪口や嫌がらせのメッセージを送られた、無視や仲間外れにされた

＜解答＞ (ウ)

〔問③〕 記事によると、ネットで知らない相手とやりとりをした経験のある中高生は、全体のおよそ何割と紹介されていますか。

＜解答＞ 4割

〔問④〕 ネット利用について、大分県は「保護者」に対してどのような対応を求めていますか。記事の言葉を使って30字以内でまとめましょう。

＜解答例＞

年齢に応じたコントロールをし、家庭でのルールを決めること。（29字）

〔問⑤〕 調査では中学生の32.7%（およそ3人に1人）が「ネットに依存していると思う」と答えています。ネットの使いすぎを防ぐために、家庭でどのような「ルール」が必要だと思いますか。あなたの考えを書きましょう。

自由解答